

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872000906		
法人名	東成産業株式会社		
事業所名	グループホーム いちさと	ユニット名(B)
所在地	茨城県つくば市柳橋122-8		
自己評価作成日	令和 4年 1 月 25 日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 8 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0872000906-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和4年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いちさとでは、閑静な住宅地に囲まれ、古民家を改築し、庭にはみかんの木、樹木、畑などがあり、家庭的な雰囲気になっております。畑で実った野菜を利用者とスタッフで収穫し、料理やおやつを作ったり、天気が良い日には散歩に出かけています。現在、コロナ禍で外出する事を控えておりますが、入居者様の気持ちに寄り添った対応を心掛けています。基本的な感染対策を実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新興住宅地の一角に位置し、落ち着いた環境の下、敷地内にある畑で利用者は職員と一緒に何種類もの野菜を育て、生育を肌で感じながら食材に取り入れることで、利用者の楽しみとやりがいに繋がっている。管理者は医師、訪問看護師、薬剤師など医療関係者とのネットワークを構築し、職員のチームワークの良さを活かして利用者や家族等の意向に沿った看取り介護を実施するなど、サービスの質の向上に努めている。介護計画書を全職員が押し確認することで、利用者一人ひとりの支援内容の必要性を把握する仕組みを導入して支援しているほか、利用者一人ひとりに担当職員を決めて利用者の意見や要望が言いやすい環境を構築している。職員はコロナ禍で外出支援ができない事や身体の不自由な利用者が多くなってきていることで神社の鳥居や絵馬、行事に合わせた衣装など手作りして行事を実施することで事業所内でも楽しく過ごせるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所、各ユニット等の目につく所に理念を掲示している。感謝の気持ちを忘れずに接しています。	理念の中にある「利用者の立場になって考えます」を意識し、利用者一人ひとりに合う目標を決めて支援している。利用者が何かお手伝いしてくれた時など、職員は感謝の気持ちを言葉に出して伝えるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元小学校の運動会や中学校の体育祭にはコロナ感染対策で中止になっており、参加出来ていない。	「子どもを守る110番の家」になっていて、事業所入口に看板で表示しているほか地域の独居老人等、SOS発信家庭の見守り活動を行っている。コロナ禍で小中学校の運動会の見学やいきいき体操等、地域との交流の機会が中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元小学校の依頼で「子供を守る110番の家」になっており、いちさと入り口の看板には子供を守る110番の家である事を掲示している。地元小学生による清掃ボランティアもコロナ鍋で中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度、区長、民生委員、地域住民、市役所の職員に参加して頂いたが、現在、コロナ感染対策の為、現在、書面でのみの報告となっている。	コロナ禍の感染状況に応じて、対面や書面での開催が実施されている。事業所からの報告や地域の困りごとなど話し合いを行っているが改善策について意見を得るまでに至っていない。	運営に反映する意見が得られるよう事前に課題を委員に投げかけて活発な会議となることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、高齢福祉課、社会福祉課との連絡は定期的に行い、報告・連絡・相談を行っている。	地域包括支援センターの担当者とはSOS発信家庭の見守り等で情報交換をしている。管理者は介護保険の更新等で直接窓口を訪問しているほか、常時ファックスやメールで市担当者から連絡が入り協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルもあり拘束はしないという前提で取り組んでる。玄関や共同スペース等は鍵をかけていない。家に帰りたいとの希望時には、近隣を散歩したり、付き添いをしている。	身体拘束適正化検討委員会を定期的に関催し、委員会の内容を基に職員の研修が行われている。身体拘束排除に関するマニュアルが整備され、見直しも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事務所や廊下などに虐待防止のポスターを貼り常に意識してケアにあたるように努めている。身体的、精神的に一人に対応しないようにスタッフ交代でケアにあたり、スタッフのストレス軽減できるようにサポートしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、成年後見制度を利用している方はいない。以前、自立支援事業を利用していた方がおりどのような制度なのか、スタッフに冊子を配布した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族と面談し、十分な説明を行い理解納得をして頂いた上で契約の締結、解除を行っている。改定時にも説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時には、日常の様子や気づいた事を報告している。来訪時や電話等で、意向を伺っている。屋外での面会時には、ご家族だけで過ごせるように配慮している。	家族等の来訪時は必ず声掛けを行い、意見や要望、困りごとがないかなどを聞くように努めている。電話を掛けた時も同様。意見等があった場合にはすぐにマニュアルに沿って対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションを大切にし、意見や提案を聞けるように努めている。その時の意見や提案など受け入れるように努めている。スタッフが考えたレクリエーションの提案を聞いている。	支援の方法(排泄、入浴等)等について会議でも話し合うが、その他に職員にアンケートを取って意見を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入社時やその時の状況に応じ、勤務時間の希望や日数、希望休等の希望を聞き働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会のお知らせを掲示し、希望者や交代で勉強会に参加してもらっていたがコロナ禍で勉強会は延期や中止になっており、参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	つくば市地域密着連絡会の連絡会は月に1回参加して他事業所との交流や意見交換を行っていたが、延期になっており参加できていない。現在は、FAXでのやりとりをして情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、入居担当者と情報共有を行っている。入居時には、ホーム内の案内や一緒に過ごす時間や会話を多く持つなど、孤立する事がない様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、ご家族とご本人と面談し、困っている事や不安な点、要望等を聞いている。入居後もご家族の協力を得られるように話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時や電話での問い合わせがあった場合には、相談にのり、他施設の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意な事、洗濯皿などを手伝って頂いており、感謝の気持ちを述べている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス対策で居室でゆっくり過ごして頂くことが出来ていないが、窓越しや屋外で面会を行っている。コロナ感染状況に応じ対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望時やご家族の協力もあり、外出する機会があったが、コロナ感染対策で外出できていない。	フェイスシートを作成し、関係の把握と職員間の共有を図っている。職員とドライブを兼ねて季節ごとの花見や自宅の畑を見に出かけたり、家族等と法事に出かけるなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や気の合う入居者同士の座席検討や大きなトラブルがないよう見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、何かあればいつでも相談に乗るとお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成にあたり私の気持ちシート(普段からご本人が発した言葉、本人の思い気づき、家族が言った事をメインに活用している)又介護記録を参考にご本人の思いを引き出せるように心がけている。	利用者との日々の会話や関わりで希望や意向を把握しているほか、表出困難な利用者とは、態度や表情から汲み取り職員間で相談しながら把握するように努めている。利用者一人ひとりに担当職員が決まっていることで、利用者が思いを伝えやすい環境となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生き方、ご家族からの情報を参考にしながらその人らしさを引き出せるようにつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、介護記録に記載している。朝、夕方と申し送りをを行い情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ドクター、看護師、薬剤師、福祉用具関係者と連携を図りながら今できる事、やらなければならない事等を話し合いながらケアプランに反映させている。	利用者や家族等の意向を基に医療関係者の意見を聞き作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、見直しを行っている。全職員が押印しながら確認しており、利用者一人ひとりの支援内容の必要性を把握しながら支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を中心に送りノートを全員が必読し情報を共有を把握している。意見、問題点はカンファレンスで解決している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医受診など、基本的にはご家族にお願いをしている。ご家族と一緒に受診の付き添いや、就業や家庭の事情で家族が付き添えない場合はホームで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、小中学校の運動会に参加していたが、コロナ禍で見学に行くことができていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回訪問診療を受け、健康管理が行われている。訪問歯科も利用し適切な医療が受けられる体制になっている。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。週1回訪問看護師による健康管理や病気の早期発見に努めるほか、協力医療機関との24時間連携体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間の医療連携体制を図っており、特変時には、連絡報告し、指導や訪問頂いている。訪問看護ノートがあり、日頃の気づきを記入し、困り事を相談し助言してくれている。薬の変更や特記事項など報告し、情報共有を行い適切な医療が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特変時には看護師～ドクターへと連携ができています。入院時に備え、医療関係者に素早く情報共有できるように介護サマリーを作成してある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特変時には訪問看護師からドクターへと連携ができています。ドクターから家族に連絡を入れ状況説明がある為、方針が決めやすい。それに従って訪問看護、薬剤師が動いてくれているため連携は整っている。	家族等には重度化対応・終末期ケア対応指針、延命治療・看取りに関する指針で説明をし、同意を得ている。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変及び事故発生マニュアルも作成しており、各ユニットに備えてある。現在、コロナ禍で勉強会は延期となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を行っている。コロナ感染対策により、自衛での訓練になっている。	夜間想定を含む避難訓練を行っている。訓練後は反省会を行い、課題について話し合っている。月1回、火災を起こさない為の確認業務と職員の意識付けを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、言葉使いや対応に気を付けている。排泄時や入浴の際には露出が少なくなるよう対応している。居室で過ごされる時にはのれんをかける等し、プライバシーに配慮している。	言葉や職員の対応、居室にのれんをかけてプライバシーの確保を実施している。人権尊重や守秘義務について規程やマニュアルを定めているとともに、年1回の会議で話し合いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつも笑顔で話しかけ、答えやすい様な言葉かけや、表情や行動からも意向や思いをくみ取れるように対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度化している中で施設の時間に沿って行ってしまう事もあるが、起床時間、食事時間、入浴時間等についてはその方の希望に添えるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回定期的に訪問美容室を利用している。入居時には、着やすい物や着慣れた物を持って着て頂いている。化粧品を使用している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好品やご家族が嗜好品を持参したものを提供している。ひとり1人にあった、食事形態や見た目に気をつけて提供している。テーブル拭きや下膳などお手伝いして頂いている。	おせちなど季節ごとの行事食や、誕生日には利用者の好きなものを提供したり、白玉ぜんざいやホットケーキなどのおやつを手作りするなどして食事が楽しみなものとなるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表等から、食事水分量の把握をしている。1人ひとりにあわせて食事形態や食器類を選び使用して頂いている。その時の利用者さんの状態に応じた捕食を提供している。夏季は特に、脱水に気をつけ水分提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けや介助を行っている。義歯を使用している方は夜に預かり洗浄を行っている。必要時には、訪問歯科に来て頂き診てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表やパターンを把握し、トイレの声掛けやトイレ誘導を行っている。1人介助が難しい時には2人介助で行い、トイレで排泄できるよう対応している。	日中は利用者にあった声掛け誘導でトイレでの排泄を支援している。夜間は居室にポータブルトイレを置き、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操レクリエーションに参加してもらい、適度に身体を動かして頂いている。嗜好品や乳製品、繊維質のある物を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	遅い時間帯、身体状況に合わせて入浴表を作成している。同性に入れてもらいたいとの希望者もおとり同性のスタッフで対応している。入浴剤やゆず湯、菖蒲湯等も取り入れ楽しんで頂けるよう行っている。	利用者の希望に合わせて入浴の表ができていて、午前・午後と表に沿って週に2回は入浴するようになっており、音楽や入浴剤、同性介助希望などの入浴の環境もそれぞれの好みに合わせるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室には、温度計湿度計を設置しており。温度調整や天気の良い日には布団を干しを行っている。車いすの方は座りっぱなしにならないように、午前・午後とソファや居室で休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別にファイルしており、薬の変更や注意点等あった場合には薬剤師が薬局ノートに記入し、スタッフ全員が把握出来るように努めている。服薬時には、日付・名前を読み上げ、確認しあいながら服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る家事やお手伝いがあればできる家事を一緒に行っている。ホームの畑仕事を一緒に行い収穫した野菜を、おかずやおやつにしている。毎月レクリエーションを企画し、実施している。新聞もとっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は難しいが、天気が良い日には、日光浴や近隣を散歩している。現在、コロナ感染対策で外食などの外出はできていない。コロナが収束したら、外出の機会を再開したい。	自由に畑の作物の成長を見たり、天気のよい日には事業所周辺を散歩したり、玄関先で日光浴やラジオ体操をするなど、気分転換ができるように支援している。コロナ禍で外出支援を中止しているが、感染状態が落ち着いてきた時は、ドライブを兼ねて近隣の花見などには出かけるように心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所でお預りしている。コロナ禍の前は、買い物に出かけ支払いもして頂いたが、コロナ感染対策の為買い物に出かけられていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、いつでも電話を使用して頂いておりご家族からの電話を取りついでいる。子機も使用し居室でも会話できるようになっている。手紙のやり取りもあり、ポストへの投函を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を植え、共用スペースには季節を感じて頂けるよう、季節の花や手作りの品を飾っている。居室には、温度・湿度計を設置しており、空調管理を行っている。	居間は十分な採光と温度管理をしながらソファやテレビを配置し寛げる空間になっている。季節が伺えるように玄関前や花壇に季節の花を植え、屋外にベンチを設置して日光浴や外気浴が気軽に楽しめる工夫をしている。各ユニットに通じる長い廊下には、手摺や椅子を設置し音楽を流してゆったり寛げるよう穏やかな環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で過ごせる時間、皆で過ごせる時間を大切に過ごせるよう、リビングにはソファ、廊下コーナーには椅子、屋外にはベンチを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご家族、ご本人お相談して馴染みの物や大切な物を持ち込んで頂いている。	居室にはエアコンやベッド、カーテン等が備え付けられている。管理者は入居時に利用者や家族等に使い慣れた馴染みの物を持参してもらえよう説明している。利用者には担当職員が決まっています、職員と一緒に、衣類の整理や部屋の片付け等を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内の要所に手すりを設置している。トイレや浴室には名札を貼り、居室入り口には表札(ご家族承諾)や飾りをつけたりと解りやすいようにしている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

施設名 グループホームいちさと

作成日 令和4年8月5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営に反映する意見が得られるよう事前に課題を委員に投げかけて活発な会議となることを期待する。	委員の方に前もって意見を求めるように努める。会議の前に問題提起し会議の時に意見を言うて頂く。	コロナ禍において委員の参加は難しいので、課題をいくつかあげ、封書にて送付し、委員の方にご意見を返信して頂く。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。